



ステップアップ 畜産!

西部農業事務所 家畜保健衛生課 (西部家畜保健衛生所)



～記事～

- ★令和6年度群馬県畜産共進会西部地域予選会の開催について
- ★輸入乾牧草の単独給与に係る注意について
- ★令和6年度浅間家畜育成牧場入牧牛(乳用牛のみ)の受託について
- ★定期報告等の手続きが電子化されます
- ★ヨーネ病の定期検査について
- ★ヨーネ病の侵入リスクが高まっています!
- ★暑熱対策のポイント
- ★大雨による堆肥や汚水の流出に注意しましょう



～別添資料～

- ★飼養衛生管理等の電子申請の開始にかかる意向確認について

★令和6年度群馬県畜産共進会西部地域予選会の開催について

牛の改良増殖を図り畜産の健全な発展に寄与することを目的に、本年は群馬県畜産共進会の西部地域予選会として開催します。農家の皆様におきましては、できるだけ多くの出品をお願いします。

今年度からは正式に出品者の農場を巡回して審査を行い、第28回群馬県畜産共進会(繁殖和牛の部 10/23、乳牛の部 10/25)の予選会となります。

開催日：乳牛の部 令和6年9月17日(火)

開催日：繁殖和牛の部 令和6年9月19日(木)～20日(金)

出品区分：繁殖和牛の部 個体 5部、群出品2部 27頭、4組

乳牛の部 個体 11部(未経産5部、経産6部) 27頭

申込み締切り：8月19日(月)までに市町村を經由して申込書を提出してください。

出品牛は県共進会の衛生検査(ヨーネ病)の採材を巡回審査時に行います。

(検査費用700円/頭：西部地域予選会で負担します。)

なお、繁殖和牛で希望する場合は、牛伝染性リンパ腫(EBL)抗体検査も実施しますので、御協力をお願いします。(検査手数料590円/頭：出品者が負担願います。)

★輸入乾牧草の単独給与に係る注意について

県内の畜産農家において輸入乾牧草を単独給与したことで、飼養牛が**エンドファイト中毒**とみられる症状(起立不能・筋肉のけいれん等)を呈す事案が発生しました。

- ・ 輸入乾牧草を給与する場合は、**複数の粗飼料を併せて給与**しましょう。
- ・ **異常があれば輸入乾牧草の給与を中止**し、診療獣医師に相談するか家畜保健衛生所まで連絡をお願いします。

★令和6年度浅間家畜育成牧場入牧牛(乳用牛のみ)の受託について

今年度は毎月入牧となり、4月28頭、5月16頭、6月13頭、7月8頭、合計65頭が西部管内から浅間家畜育成牧場に入牧しています。今後は冬季を含め毎月入牧を予定していますが、事前の入牧希望調査では、秋季から冬季の入牧希望が少なかったため、10月以降の入牧牛は引き続き、入牧日の2か月前までに市町村を通じ連絡をいただければ調整します。

入牧月と生年月日（入牧時推奨月齢はおおむね7箇月が目安です）

入牧月	生年月日	入牧日	備考
10月	令和6年2月19日～3月16日	10月16日	第3水曜日
11月	3月17日～4月20日	11月20日	第3水曜日
12月	4月21日～5月18日	12月18日	第3水曜日
1月	5月19日～6月15日	1月15日	第3水曜日
2月	6月16日～7月19日	2月19日	第3水曜日
3月	7月20日～8月12日	3月12日	第2水曜日

★定期報告等の手続きが電子化されます

定期報告等が電子化されるに伴い、gBiz ID（ジービズアイディー）を取得し、eMAFF（イーマフ）に接続して農場登録をお願いします。

令和7年2月1日時点の報告から電子申請が始まります。

詳細については添付の資料を参考にし、家畜保健衛生所に回答をお願いします。

★ヨーネ病の定期検査について

5月に実施した高崎市吉井地区の定期検査は、農家および関係機関の皆様のお陰で順調に検査を行うことができました。大変ありがとうございました。9月には高崎市箕郷町、10月には富岡市の検査を予定しています。日程調整や検査当日の飼養牛の繋留等、ご協力の程よろしくお願ひいたします。

また、ヨーネ病の他に牛伝染性リンパ腫（BLV）やウイルス性下痢（BVD）の検査希望がありましたら、あらかじめ、家畜保健衛生所にご連絡下さい。

★ヨーネ病の侵入リスクが高まっています！

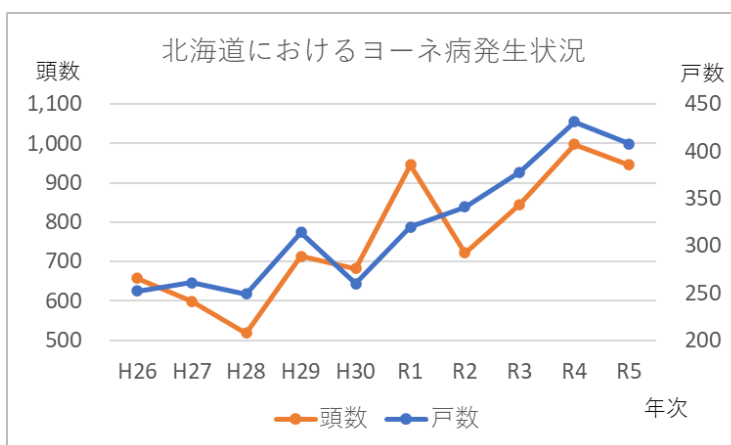
—県外導入牛（退牧牛含む）は必ず検査を受検して下さい—

北海道においてヨーネ病の発生頭数及び戸数が年々増加傾向にあり、北海道から牛を導入する都府県の農場においても、ヨーネ病の侵入リスクが高まっています。

ヨーネ病は法定伝染病の中で最も発生が多く、経済的被害も大きい疾病です。長い潜伏期間（6カ月～数年）を経て、持続性の下痢と、乳牛

では乳量の低下を起こして栄養状態の悪化とともに痩せ細り、やがては死に至ります。また、ヨーネ菌はマクロファージと呼ばれる細胞の中に潜んでいるため、感染牛は輸送や分娩等ストレスがかかった後に排菌・発症すると言われています。

したがって、県外から牛を導入、または県外に預託していた牛が戻ってくる際、さらに、県内市場において県外からの上場牛を購入した場合は、ヨーネ病の検査を必ず受検して下さい。なお、検査については、導入（退牧）計画が立ちましたら、農場への着地日や頭数等をあらかじめ家畜保健衛生所へご連絡下さい。検査手数料は1頭あたり¥1,290です。



★暑熱対策のポイント

今年の夏も平年より気温が高く、暑い日が続いています。暑熱によるストレスは繁殖機能の低下や免疫機能の低下などさまざまな影響が生じますので、しっかりと対策を行っていきましょう！

1. 牛舎内の風通しを良くする

同じ気温でも、**風速2mの風があると体感温度は約8℃下がります**。また、湿度を下げることも体感温度を下げる要因となります。換気扇などによる送風はもちろんですが、密飼いを避け、牛舎内を**整理整頓して風の流れを妨げない**ことが重要です。

2. 屋根から熱を防ぐ

牛舎内で最も高温になるのは直射日光を浴びている屋根であり、そこから牛舎全体へ熱が伝わっていきます。**屋根への散水、石灰乳や遮熱性塗料**などの塗布を行うことで、牛舎全体の気温を下げる事が出来ます。

3. 暑熱ストレスに負けない牛にする

新鮮な水を十分に飲める環境を確保し、**涼しい夜間に飼料給与料を増やす**ことで健康な状態を維持しましょう。唾液の流出や発汗で失われる**ミネラル**や、病気への抵抗力を高める**ビタミンの補給**も重要です。毎日の観察で牛の異常を早期に発見することを心がけましょう。

4. 害虫（サシバエ、アブ）対策

害虫の増加は、しっぽや首を振るなど牛の運動量を増やし、また、虫を避けようとして牛が身を寄せ合うことでさらなる体温上昇につながります。畜舎内の除ふん等清掃をしっかりと行い、薬剤や粘着シート等を使用して害虫の防除を行いましょう。

★大雨による堆肥や汚水の流出に注意しましょう

この時期は、雷雨等による集中豪雨が多発します。大量の雨水が堆肥処理施設や畜舎周辺に流れ込んだ場合には、周辺の道路や田畑などへ家畜ふんや汚水が流出する可能性があります。

流出を未然に防ぐために、

○最新の気象情報を常にチェックする

○施設の点検、補修を行う

○畜舎や堆肥舎周辺の清掃を行い、流出する可能性があるものを減らす

○大雨のリスクを考慮した防水・排水対策を行う

などの対策が必要です。

日頃から家畜排せつ物の適正管理を意識し、流出防止のための再確認をお願いします。



★ 畜産業を廃業された方に送付された場合は、お手数ですがご連絡ください。

西部家畜保健衛生所 〒370-0074 高崎市下小鳥町233
TEL 027-362-2261 (緊急時 24時間対応) FAX 027-362-2260